

4 地域別の動向

(1) 北海道



北海道地域では、景気はやや弱含んでいる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費はやや弱含んでいる。
- ・ 雇用情勢は依然として厳しい。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方修正、 は下方修正)

前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 16 年 5 月)	今回 (平成 16 年 8 月)	
観光	減少	おおむね横ばい	
住宅建設	大幅に増加	減少	

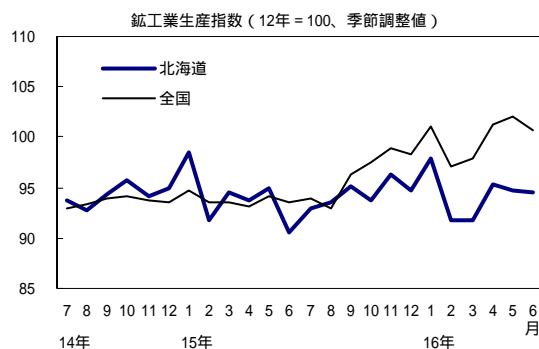
1. 生産及び企業動向

(1) 第一次産業は、生乳生産は前年並みとなり、水産業は前年を上回っている。

生乳生産は、牛乳等向け、乳製品向けがともに増加したものの総量では、984,402t と前年比で0.8%増とおおむね横ばいとなっている。水産業(主要 11 港主要品目)は、この時期の主力であるほっけは前年を上回り、すけとうだらが前年並みだったことから、水揚量は前年を上回っている。

(2) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

食料品・たばこは、小幅なレンジで一進一退の動きとなっており、期を通じてもおおむね横ばいとなった。パルプ・紙は、1月から5月まで5か月連続で減少した後、6月は雑種紙などにより、前月比でプラスに転じた。電気機械は、モデルチェンジの端境期で、5月に無線通信装置などが減少したことから、8四半期ぶりの前期比マイナスとなった。窯業・土石は、4月にセメントが大きく増加したことなどから、前期比プラスに転じた。金属製品は、4月に鉄塔が増加したことなどから、2四半期ぶりに増加に転じた。



(備考) 平成 16 年 6 月の北海道は速報値。

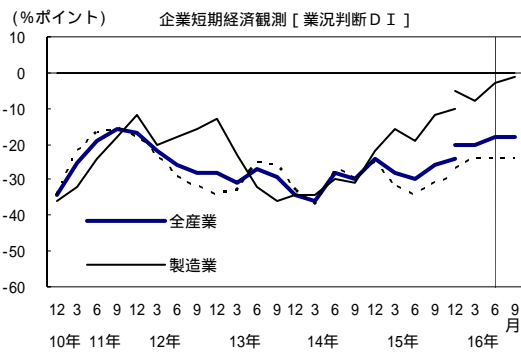
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比増減率) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		1~3 月期	4~6 月期	4~6 月期	4~6 月期
食料品・たばこ	26.5	4.8	0.9	0.7	1.7
パルプ・紙	12.1	2.9	2.4	1.0	6.1
電気機械	9.5	4.1	1.7	0.4	1.5
窯業・土石	9.0	9.5	11.0	4.5	6.3
金属製品	9.0	1.0	3.3	1.3	15.6
鉱工業	100.0	1.3	1.2	2.3	0.2

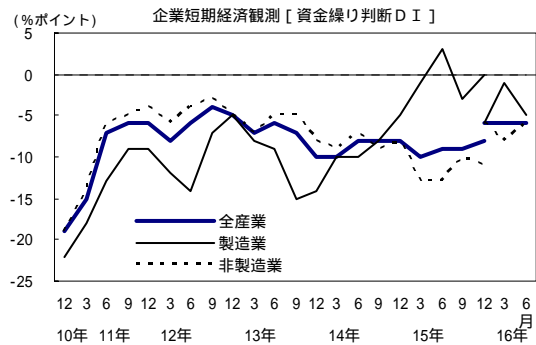
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い 15 業種。
2. 4~6 月期は速報値。

(3) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「苦しい」超幅が横ばいとなっている。

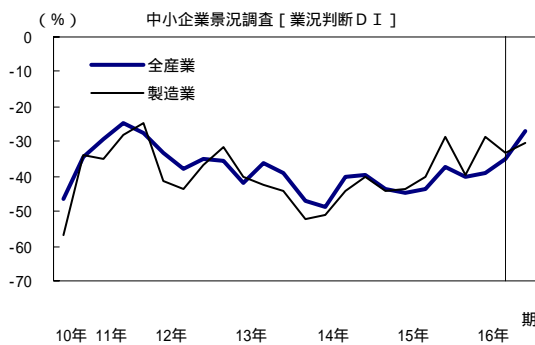
企業短期経済観測調査 [業況判断D I、資金繰り判断D I] 及び中小企業景況調査 [業況判断D I]



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。16年9月は予測。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
なお、15年12月分については新・旧基準の値を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。16年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査 (7月調査) [企業動向関連 (現状判断)]

「設備資金は低調である。中国特需も輸出産業の少ない道内には恩恵が及ばない。逆に全般的な原料価格の高騰を価格転嫁できずに苦しむ企業が多い(金融業)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

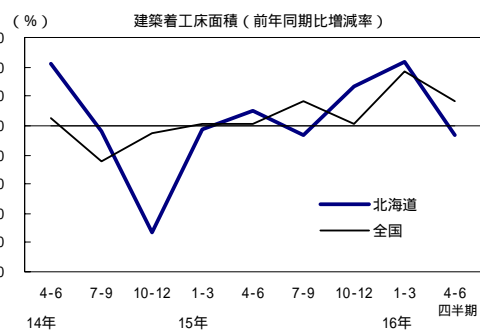
(4) 16年度の設備投資は前年度を下回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

(前年度比増減率、単位：%)

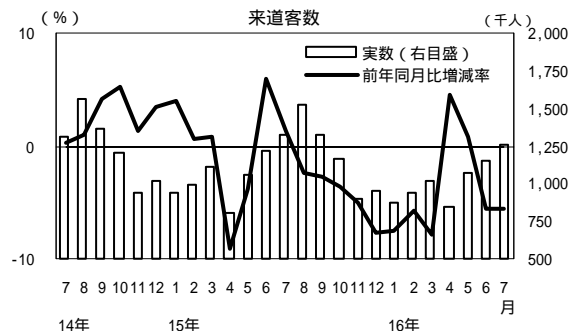
	15年度実績	16年度計画
全産業	14.9(0.9)	5.4 (9.2)
製造業	16.7(3.7)	5.8 (19.9)
非製造業	14.0(2.9)	5.3 (5.1)

(備考) () は前回 (3月) 調査比修正率。電気・ガスを除く。



(5) 観光はおおむね横ばいとなっている。

来道客数を見ると、連休の並びが良かったことなどから、4月、5月は前年を上回ったが、その後は沖縄や海外に押された影響や、北海道でも暑かったことで旅行が控えられた影響で、再び前年割れとなっている。



(備考) 北海道観光連盟調べ。

(1) 北海道

2. 需要の動向

(1) 個人消費はやや弱含んでいる。

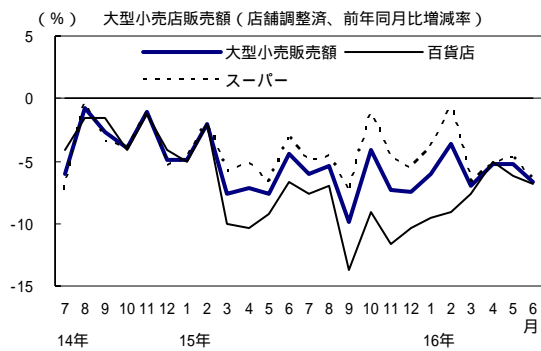
大型小売店販売額及びコンビニエンスストア販売額

百貨店は、4月の衣料品は比較的堅調だったものの、5月以降は減少幅がやや拡大した。また、昨年は6月から行われたセールが今年は多くの店舗で7月からとなったことから、6月の衣料品及び身の回り品は低調だった。なお、日本百貨店協会によると、7月の北海道地区の売上高は、前年同月比で1.6%減となっている。

スーパーは、主力の飲食料品は比較的堅調だったものの、衣料品で2桁の減少が続いたことから、前年を下回っている。

景気ウォッチャー調査(7月調査)[家計動向関連D I (現状判断)]

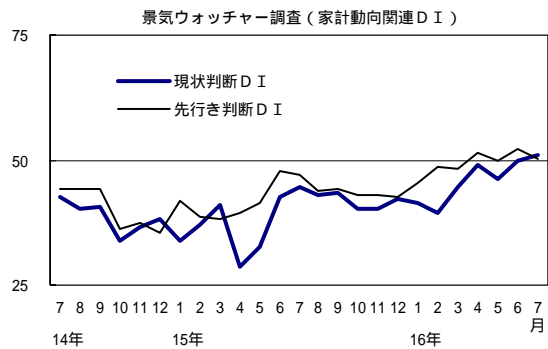
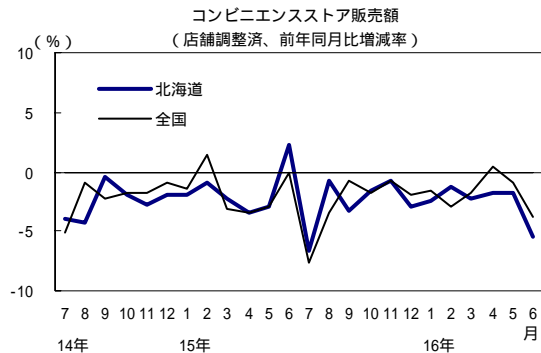
「食品の安心・安全を求める声の高まりを背景に、土用の丑のうなぎ等は安い輸入物から国産商品にシフトしているなど、特定商品の販売単価の上昇もみられる(スーパー)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。



(前年同期比増減率、単位：%)

	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月
大型小売店	7.1	6.4	5.7	5.7
百貨店	9.5	10.3	8.6	6.0
スーパー	5.7	4.1	3.9	5.5
コンビニ	3.5	1.8	1.9	3.1
景気ウォッチャー	43.7	40.9	41.8	48.4

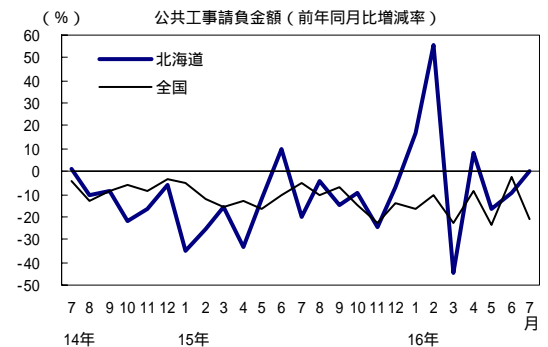
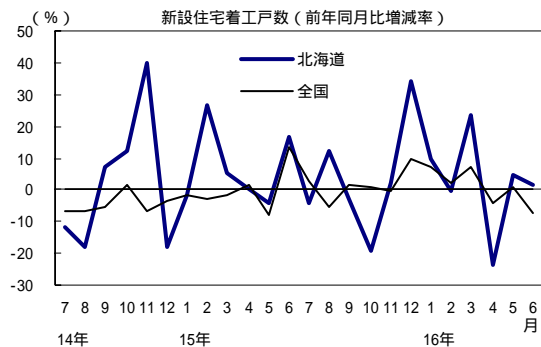
(備考) 1. 大型小売店及びコンビニ販売額は店舗調整済。
2. 景気ウォッチャー調査の数値は家計動向関連の現状判断D Iの3か月単純平均。



(2) 住宅建設は減少している。

分譲は増加したものの、貸家、持家が前年を下回ったことから、全体でも減少している。

(3) 公共投資は16年度累計で見ると、前年度とほぼ同水準になっている。

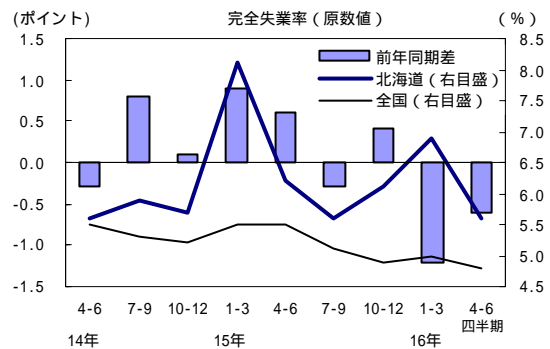
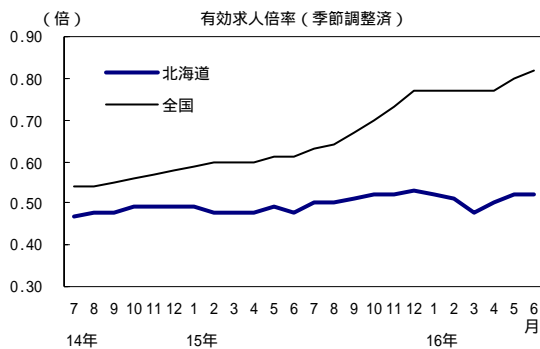


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は依然として厳しい。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率はおおむね横ばいとなっている。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[雇用関連 (現状判断)]

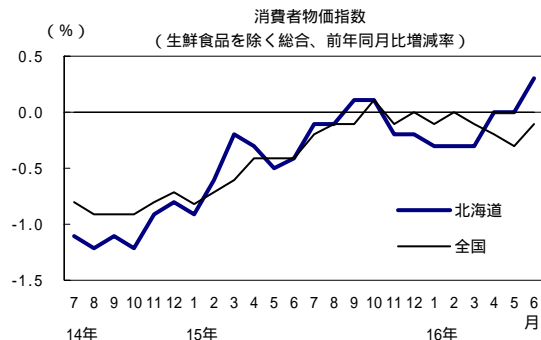
「求人件数は微増しているものの、パート・アルバイトなどの非常用が8割以上で、常用の求人件数は相対的に減少傾向が続いている (求人情報誌制作会社)」など、「変わらない」とする回答が多くみられた。

(2) 企業倒産は、件数、負債総額ともに減少している。

(3) 消費者物価指数はおおむね横ばいとなっている。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	15年7-9月	10-12月	16年1-3月	4-6月	16年7月
倒産件数	145	137	152	163	38
(前年比)	20.3	9.3	29.0	14.7	20.8
負債総額	448	334	445	433	82
(前年比)	0.0	67.5	59.7	83.4	29.8



景気ウォッチャー調査 (7月調査)[合計DI (特徴的な判断理由)]

<現状>

・道外客の動きが鈍い。団体旅行数の減少、旅行客数の減少がコンスタントになってきている。地元客は、先行き不安感が一掃されていないため、引き続き低調である (旅行代理店)

<先行き>

・十勝地区の大規模畑作農家は、天候に恵まれじゃがいも・ビート・豆類ともに豊作が見込まれる。農機具メーカー・農産物倉庫・物流・食品加工業などで活況が見込まれる (その他非製造業 [機械卸売])

景気ウォッチャー調査 (合計DI)

